

# 2024年度第2回町田市立国際版画美術館運営協議会議事要旨

■日時：2025年1月30日（木） 午後2時

■会場：町田市立国際版画美術館 講堂

■内容：

## 1. 報告事項

(1) 2024年度後半期の事業の振り返りと総括について

・展示事業

「幻想のフラヌール 版画家たちの夢・現・幻」展

(資料1)

・普及事業

(資料2)

(2) 2024年度前期の美術資料の収集状況について

(資料3)

(3) 2024年度第26回ゆうゆう版画美術館まつり実施報告について

(資料4)

## 2. 審議事項

(1) 2025年度事業計画について

・展示事業

(資料5)

・普及事業

(資料6)

## 3. その他

■出席委員： 諸川 春樹、三上 豊、降旗 千賀子、生嶋 順理、  
高橋 健志、三竹 和行（敬称略）

■出席者： 町田市文化スポーツ振興部 老沼部長、  
町田市立国際版画美術館 大久保館長、星野副館長、  
藤村係長（学芸係）、渡辺係長（普及係）、森係長（管理係）、  
西（管理係・書記）

## ■会議録（要約）

○開会の宣言（町田市立国際版画美術館 副館長）

○町田市文化スポーツ振興部長挨拶

○館長挨拶（町田市立国際版画美術館 館長）

○委員紹介

## 1. 報告事項

### (1) 2024年度後半期の事業の振り返りと総括について

○資料1及び資料2について事務局から説明

○委員からのご意見、ご質問等

委員

企画展「幻想のフラヌール」の事業報告書に、全国大学版画展の受賞作品を活用した、とあるが、何点くらい展示したのか。また、今回展示することについて、作者の方たちに通知したのか。

事務局

全国大学版画展の受賞作品の出品作家は3名で、展示することについて皆さんにお伝えしてある。

委員

「創作講座 スクリーンプリント」の「延べ参加人数」について、全8回で80人となっているが、これは同じ人が参加されているのか。

事務局

そうである。10人×8回ということである。

委員

学校の受け入れ状況について、展覧会の際、小・中学校の鑑賞の受け入れもされているかと思うが、この中に入っていないのか。

事務局

例えば、N中等部町田キャンパスについては、鑑賞をされたいという話をいただき、当館の学芸係と普及係が連携して受け入れた。他にも、近隣の学校など、臨時の受け入れが増えている。今は普及事業の方がメインで、普及係からご説明する内容が多いが、学芸係からも、教育普及ということで、今後、こういった活動をしている、ということ、何かしらのかたちで資料化してお伝えすることを考えた方がいいかと思っている。

委員

鑑賞教育の活動についても、こういった報告に載せていった方がいいと思う。

事務局

補足として、企画展によっては、赤ちゃんや小さいお子さん向けの鑑賞講座などを行っていて、展覧会の事業報告の中の「関連催事」として載せていることはあったが、それとは別に臨時で学校側からの要望で鑑賞受け入れを行うことがあり、それ

らは、これまで明記することがなかった。今後はそれらを盛り込んで行きたい。また、アウトリーチ活動として、こちらから積極的に働きかけていくことも、今後の休館に入った際には出てくると思うので、資料としてこういった場にご提示しなければならぬと思っている。

## 委員

町田市立国際版画美術館の場合は、学芸係が行っている教育普及活動と普及係が行っている活動の二つに分かれているが、普通は、美術館のエデュケーション活動として、学芸係と普及係がやっているものを一緒にして「教育普及活動」として出すことが多いと思う。そこが町田は分かれていることが、もったいないように感じる。実技に寄っている活動と鑑賞の活動について、係で分けるのではなくて、美術館の全体の活動の中での対外的なコミュニケーション活動として触れてもいいのではないかと思う。

## 事務局

今年度から、鑑賞教育の職員が入ったこともあり、まだ館内でそうしたことの調整が出来ていない。実技の普及については普及係、鑑賞教育については学芸係が担当しているが、それは美術館内部の話であって、確かに外部からご覧になった場合は違和感やわかりにくさがあるというのはおっしゃる通りだと思う。今後は、普及係と学芸係とがうまく調整して、わかりやすいかたちでご報告できるよう対応してまいりたい。

## 委員

「幻想のフラヌール」展のアンケートの「展覧会情報の入手」について、「ポスター」「ちらし」「家族・知人にすすめられて」などの従来の入手方法に対して「ホームページ」が群を抜いて多い。ホームページに、今回の展覧会の情報を載せるにあたって、従来と内容を変えているか。

## 事務局

基本的な情報の掲載量は、従来の展覧会と変わらないが、唯一今回違ったのは、展覧会で配布したリーフレットをPDF化してそのままホームページに掲載することができた。展覧会の内容を、担当学芸員と展覧会にご協力くださった美術評論家の相馬俊樹氏の文章を、インターネット上で見るができるということが、ひとつ、今までの展覧会とは違った部分だったかと思う。もしかすると、そういった展覧会の深い内容をホームページでご覧になって、興味を持たれた方が来館につながったのかもしれない。また、若い人たちは、SNSの利用などによる口コミの頻度が、浮世絵などの展覧会と比べて多かったのではないかと思う。口コミ（「家族・知人にすすめられて」）にはそういったものもカウントされているのではないかと思う。また、今回は学芸員のみ視点ではなく、協力者として美術評論家の視点を入れたことで、我々では拾い上げられない部分も取り上げられた。ベテランの作家

だけでなく、若い作家を取り上げたことが、若い方にも受け入れられたのではないかと思う。

#### 委員

ホームページの、文書と画像の割合が、今回変わったということか。

#### 事務局

見た目はあまり変わらないが、ページの最後にPDFのダウンロードが入った。ビジュアル面について、どのくらいの効果があったかは把握できていないが、SNSに載せる画像は、ポスターのデザインに合わせるという工夫を行った。展覧会のチラシがロゴ的に見えるよう、繰り返し同デザインをSNSに投稿するなど、広報の仕方を工夫した。今後は、ホームページのデザインなど、広報宣伝活動の一環として、より洗練させていく必要はあるかと思う。

#### 委員

「幻想のフラヌール」展について、町田市外からの多くの来場者があったことは、よいことだと思う。たとえば、近年は外国からの旅行者が、銀座など、東京の真ん中かだけでなく全国のいろいろなところを訪れている。日本の版画という海外では浮世絵が有名だが、浮世絵の本物が見られること、版画専門の大きな美術館があることなどを対外的にもっと宣伝していった方がいい。「日本に来たら、成田・羽田からまっすぐ町田へ」というぐらいに。そのぐらいの資源になるものが、町田にはあると思う。

普及事業のこれから行われる子ども講座について、印仏をテーマにしているのは面白い視点だと思った。大学における版画の取り組みにおいても、ただ技術を覚えるのではなくて、版画の複数性によって、どんなことが起こるのか、を体験することが大事だと改めて思っている。そのなかで、こういった内容は大事な内容だと思う。

「学校教育への協力」について、通信制の学校の受け入れがあったが、通信制の学校から、美術大学に進む人の数がかかなり目立ってきている。通信教育で教育を受けて育っていく学生さんも増えていると感じている。鑑賞だけでなく、実技の普及が体験できることが、この美術館の特徴にもなっていると思うので、鑑賞と一体となったような普及の活動ができるようになると、版画美術館独自の事業に展開できるのではと思う。

#### 委員

展覧会事業報告のアンケートについて、アンケートの回収率が低すぎるように感じる。アンケートの質問項目があまりにもありきたりの質問で、答える側からするとどうでもいいような質問があることもあり、回収率があがらないのではないか。そのあたりももう少し工夫してはどうか。アンケートから得られるデータ

は、とても有効利用ができる。回収率をあげて今後の展開に役立てることに、もう少し力をいれてほしい。

## (2) 2024年度前期の美術資料の収集状況について

○資料3について事務局から説明

○委員からのご意見、ご質問等

### 委員

寄贈申出美術資料のNo.3にある「田中誠一撮影 版画家肖像写真」について、プリントのサイズは揃っているか。また、ネガも含まれているか。

### 事務局

ほぼサイズは揃っている。ネガのご寄贈のお申し出もいただいたが、受け入れが難しく、現像したもののみを受け入れた。

### 委員

どこの美術館も、ネガの受け入れを断っているようだが、ネガを密着のデジタルにしておくというのも手かと思う。予算のことがあるかと思うが、ネガをどうするかは多くの美術館が抱えている課題。ぜひ先陣を切っていただきたい。

### 事務局

当館では、いままで収蔵してきたもののデジタル化の課題も抱えている。展覧会の図録作成時に、デジタル化して蓄えていく、作品のデジタルデータ化を本格的にやっていくとなつて、しかもある程度の解像度を保って使えるものとなると、自前の機材では限界があり、そういったことを長期的に考えていく視点は必要だが、その際どうするかというと、まとめて委託等をして、考えてはいかなくてはならない。

### 委員

寄贈申出美術資料のNo.3にある「田中誠一撮影 版画家肖像写真」について、これらは封筒に入って、作家ごとにまとめられているのか。

### 事務局

ある程度ファイルに入っているものもある。作家によって枚数が違うところがあり、すべて揃っているわけではないが。作家数は全部で111人。時代的には、巖嘯さん、棟方志功さん、山本容子さんなど国内の作家のほか、アンディ・ウォーホルなど、海外の作家も若干含まれている。

## 委員

最近の美術館は、アーカイブ群など、積極的に行っている。こちらでも版画美術館ということで、二次資料的な作品たくさんあると思う。そうしたものの整理は、非常に細かくて、大変かと思うが、町田をいかに世界に出すかということにもつながる重要な資料になるかと思うので、取り組んでほしい。

## 事務局

アーカイブ、アートドキュメンテーションの視点というのは、当館にも求められる時代になっていると思う。当館と同じ規模の美術館はどこも同じかと思うが、なかなか人手が足りないなどの問題があるが、このように収集できたものを、活用しないのはもったいないと思うので、そうしたジレンマをどこかで解決していければと思う。

### (3) 2024年度 第26回ゆうゆう版画美術館まつり実施報告について

○資料4について事務局から説明

○委員からのご意見、ご質問等

なし

## 2. 審議事項

### (1) 2025年度事業計画について

○資料5及び6について事務局から説明。

○委員からのご意見、ご質問等

#### 委員

企画展「版画はアートなの？（仮称）」は、版画初心者の方の立場からも親しみやすい内容のようなので、興味を惹かれる。

#### 委員

企画展「版画はアートなの？（仮称）」について、子ども向けにすると予算がたりたりするので、学芸員の皆さんも「子供向け」の企画をやることが多いが、「子供向け」に作ったものが、大人にもわかりやすかった、ということがあると、美談のようになるけれど、そこは気を付けないといけない点かと思う。学芸員になると、一般の方がどのように見るかをなかなか慮れなくなる。例えばキャプションだったら、作者名があって、タイトルがあって、技法があって、で済ませてしまう。技法だったら、それがどういうものなのか、など、一般の方へにもちゃんと考えなければいけないと思う。「子供向け」というよりも、展示をどのように扱うかを、そこのところをもっとしっかりとやっていく必要が美術館にはあると思う。それをきちんとやると、子供もわかるのではないかと思う。子供

向けのものを作って、大人も喜ぶ、ではなくて、何が必要なのか、情報をもっと必要なのか、など、そういうところから考えていく必要があると思う。

#### 事務局

「わかりやすさ」「子ども向け」という言葉の裏側には、落とし穴のようなものがあると思っている。わかりやすければいいというものではなくて、そこには一種、こちら側の意図などが常に思う。一方でそうしないと、情報量が過多になってしまったり、わかりにくくなってしまったりなど、キャプションの内容と書き方などは、少しずつ学芸員のなかで共有され始めている。例えば、福岡市美術館の「わかりやすいキャプションとは何か」を実践しながら紀要で報告されていたりするので、そうしたものを共有しながら、「子ども向け」という言葉に踊らされずに、また、それに甘えないような作りを考えていくことが、当館の鑑賞教育の目玉というか、売りになっていくくらいの気持ちで、鑑賞教育の担当者と共有しながら進めていきたい。

#### 委員

企画展「版画はアートなの？（仮称）」の展示会のなかで、どこか1点でもいいので、すごく難しい語り口と、易しい語り口の解説を並列してみると、見た人が同じ作品から違った受け取り方をすると思う。いままでは、「子ども向け」の展示会だと、「子ども向け」のキャプションが羅列してあるようになっていたと思うが、そうではなくて、もう少し立体的に、ある1点なら1点を語る、という試みが、どこか一角にあってもいいと思う。

次回の企画展「日本の版画 1200年」で展示予定の鬚嘸氏の《レインボー北斎 ポジションA》についても、いろいろな見方ができる。そうした作品の見え方の多重性を、どこかで提示しておくということが、全点やらなくてもいいと思うので、そういう見せ方の工夫がこれから求められてくると思う。

今回収蔵された版画家の写真についても、それをどのように使うのかを考えたときに、たとえば、鬚嘸氏の作品のとなりに、作家の写真を置くのか、など、ちょっとした工夫が全部でなくていいので、少しあると面白いと思う。

#### 会長

審議内容について、承認でよいか。  
（「異議なし」の声あり）

#### 会長

審議内容を承認とする。

### 3. その他

○ 芹ヶ谷公園“芸術の杜”の進捗状況について事務局から説明  
(資料なし)。

○閉会の宣言(会長)

—以上—